

在宅療養について学ぶ PART1

～在宅医療サービスとチーム連携～

参加者状況及びアンケート結果

開催日：令和4年7月20日(水) 13:30～16:30

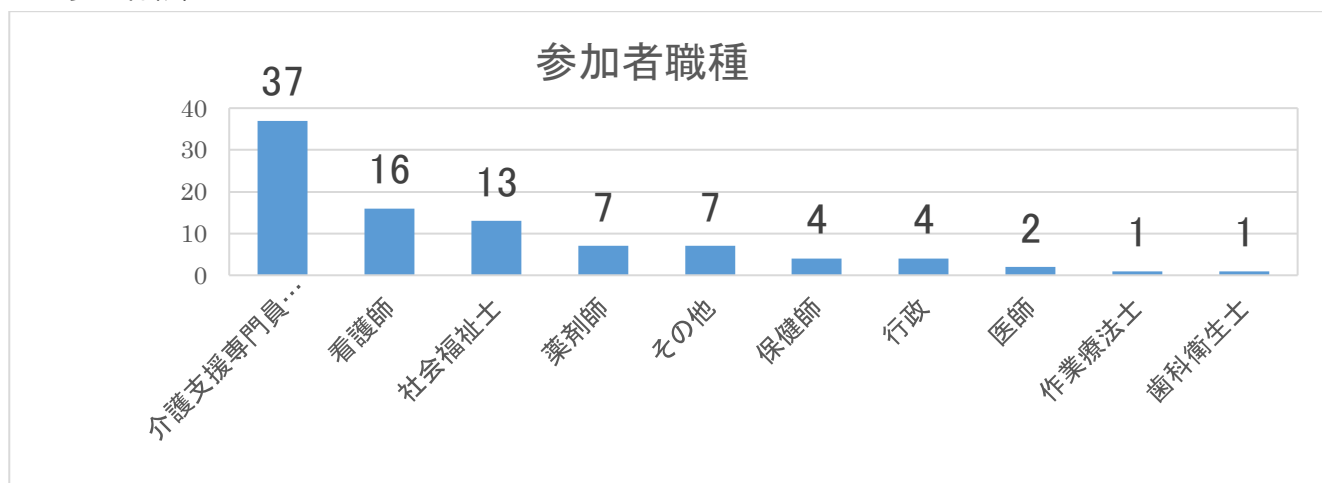
場所：山形市医師会館4階

講師：奥山慎一郎氏（訪問診療クリニックやまがた 院長）
五十嵐絵美氏（訪問診療クリニックやまがた ソーシャルワーカー）
山川一枝氏（訪問看護ステーションやまがた 所長）
渡邊健氏（訪問看護ステーションいぶき 管理者）
山口真紀子氏（ライフサポートセンターめだか 管理者）

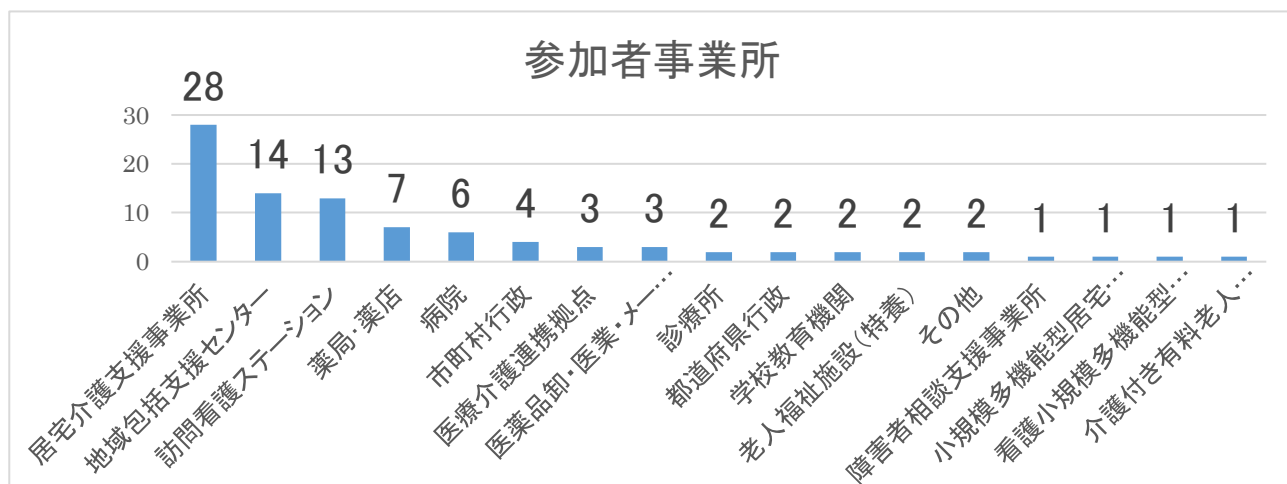
アンケート回収数(回収率)：69(75%)

I 参加者状況

- 参加者数 92名
- 参加者職種

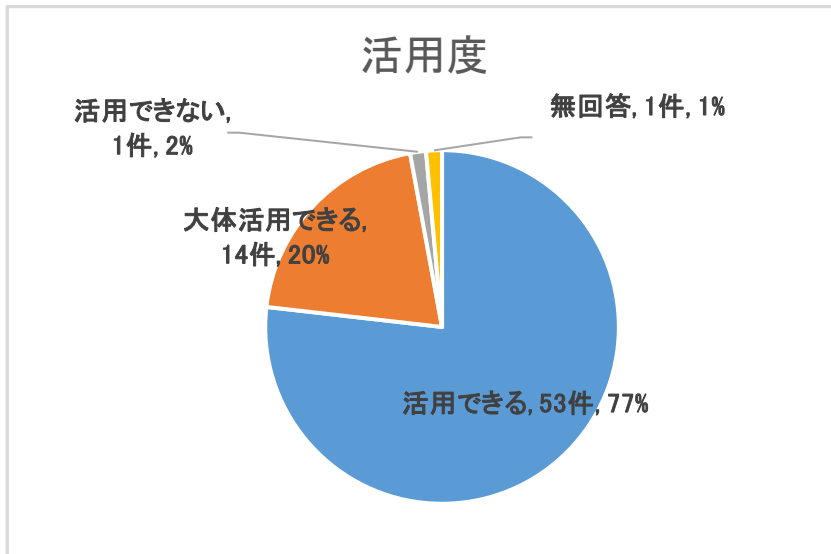


- 事業所種別



Ⅱ アンケート結果

1. 活用度



→どんなところが活用できるか

①活用できる

- ・ 押しつけをしないこと。相手を知ることが大切にして話をきくようにしていきたいと思った。
- ・ 多職種、他事業所の実践事例の紹介は、今後の自身の実践に活かせると感じた。
- ・ 往診につなぐか迷ったときに、相談できる場がある。
- ・ 在宅ケア相談窓口
- ・ 今後の方向性等の、ご家族との話し合いでの意思決定時の助言やアドバイスの参考になった。
- ・ 訪問診療につなぐ時
- ・ 訪問クリニックに相談してみる
- ・ 薬局でも訪問診療や訪問看護についての説明が少し深くできるようになった。
- ・ 利用の流れや相談窓口
- ・ 在宅療養について、詳しく学ぶ事が出来た。(在宅療養における意思決定支援について)なるべく早い段階で、訪問看護に相談する。利用者と家族の意思、意見が異なる場合、どのように話を聞くか、正しさの押しつけをしない。
- ・ 在宅生活を希望される方に紹介。(情報提供したい)地域の方々へ周知したい。
- ・ チームの力で利用者の生活を支援する。一人では何もできないということ。
- ・ 相談、利用の流れについて。
- ・ 支援するにあたって、根拠を大切にアセスメントを行い、他職種と情報共有してケアを行う事を意識する。
- ・ 訪問看護の利用(特に医療について)
- ・ 親など、家族の身にあった時など、有用な情報も多かったと思う。
- ・ 訪問看護、訪問診療の導入のタイミングを常に意識していきたい。
- ・ 在宅での看取りは、訪問看護と連携できる。また、輸血もできると知った。
- ・ 訪問診療や訪問看護導入について、研修会を振り返り、情報提供を行っていきたい。
- ・ 情報の共有ができる。
- ・ 在宅での上手な介護について、奥山先生とクリニックを頼りにしてみたいと考えた。
- ・ 調剤薬局の活用、ICTシールの活用、連携の過程で支援するACP。
- ・ 訪問診療の奥山先生の話は参考になった。
- ・ 在宅療養を検討している利用者との相談場面で、情報提供ができると思う。
- ・ 訪問診療、訪問看護の導入。
- ・ 訪問診療クリニックと訪問看護、ケアマネジャー連携の実践。
- ・ 訪問診療でどんなことができるのか。
- ・ 訪問看護の役割や対応について学べたところ。
- ・ 在宅でできる医療を学び、訪問診療につなぎやすくなると感じた。

- ・ 実践的な内容だった。
- ・ 訪問診療や訪問看護の制度であやふやな部分の知識、情報が得られた。
- ・ 訪問診療検診中の方がいる。前向きに相談をすすめたいと思う。医療保険での訪問看護についても大変勉強になった。
- ・ 実践的、各先生方の経験にもとづき、説得力ある説明をいただいたこと。
- ・ 訪問診療の連携、サービスの提案、紹介。
- ・ 情報収集により、訪問診療、訪問看護の特色をみて、利用者に合わせた相談先の選択を行っていききたい。
- ・ 他職種の方々が必要としていること、現場で求められているニーズを把握できた。
- ・ 皆様、それぞれの取り組みや思いが知れて、今後、連携をしていく上で、参考にさせて頂く。
- ・ ACPのあり方等
- ・ 医療保険の自己負担の合算について、改めて確認できて、医療と介護の区別により、負担金が変わってくるため、勉強になる。他のことも、日々の業務に活用することばかりである。
- ・ 今後の看護活動、在宅医療継続に向けた具体的な支援を知ることができた。
- ・ 今後、連携を取っていく際の視点。
- ・ これからのマネジメントに活かせる。振り返り、見直しができる。
- ・ 訪問診療、訪問看護導入手順。
- ・ ACPのとらえ方。結論がなくても、その時その時で本人の希望「こうしたい」を聞き、支援者間で共有すること。
- ・ 医療保険の訪問看護利用について。
- ・ 訪問看護、訪問診療の活用。
- ・ 利用者と家族の意見が異なる場合、それぞれ訴える内容について、どのように認識しているかを確認する。
- ・ これから看護師として働くうえで、意思決定のことなどを詳しく知ることができ、患者のためになる看護について考えることができる。

②大体活用できる

- ・ 多職種の連携、お金のこと。
- ・ 訪問診療の利用、ケアマネジャーとの連携。
- ・ 在宅医療サービスと連携について
- ・ どの分野も参考になった。
- ・ 訪問診療の申し込み方がわかったので、利用しやすくなったような気がする。
- ・ 意思決定支援時の心構え。
- ・ 在宅の利用者の生活を支えていく。
- ・ 本人と家族の訴えが異なる時の支援について。
- ・ 訪問診療や訪問看護について、事例等を通し、具体的に知ることができた。
- ・ 意識改革
- ・ SNSツール等、活用を調べてみたい。
- ・ 施設でも活用できるものがあると感じた。

③活用できない

- ・ 業務内容が少し異なるため、自分の知識の幅を広めるつもりで参加したから。

2. 感想

- ・ 末期の方に関わる人が多いが、状態が変わってきてからではなく、早い段階から、これからどうしていききたいか、利用者、家族を含めて話を聞く時間をもつことが大切だと感じた。言葉使いによっては相手を不快な思いにさせてしまうため、聞き方には配慮が必要で、迷ってしまうことがあるが、相手のことを理解したいという考えを伝えながら関わっていけたらいいと思った。
- ・ めだか山口さんから発表のあった、ケアマネが抱える困難について、多職種で共有、検討する機会があればよいと思った。職種が違えば、また、色々な角度からの意見があると思うので、お互いを知ろうとする努力が常に必要だと思った。
- ・ 訪問診療クリニックやまがたの相談体制が、医師9名、看護師2名、ソーシャルワーカー3名と、こんなに整っていることに驚きと、ケアマネジャーが医療相談が不得意なことも含め、理解して支援してくださっているので、苦手意識を克服できるケアマネジャーも増えていき、医療と介護の連携の質が上がっていくきっかけになると感じた。
- ・ 訪問診療での内容や、意思決定する際には利用者、家族の意向、どうしたいのかを汲み取り、方向性に視点を向けていくことが大事だと改めて学んだ。今後の担当者会議の場での参考とさせて頂きたいと思う。
- ・ 癌以外でも相談してみる。訪問診療クリニックやまがたは、精神の方も訪問してくれるのか？
- ・ 少しは知っていたものの、訪問診療、訪問看護について、保険について学べて良かった。今まで、薬局以外の事は、ふわっ

としか聞かれても説明できなかったので、勉強になった。今後の業務に活かしていきたい。

- ・ 訪問診療や訪問看護について、利用までの流れや具体的な内容を理解でき良かった。医療の事はわからないところも多いため、相談ができたり、連携が図れると安心感があると思う。
- ・ MCSの活用・ツール活用について。訪問看護の導入時期の重要性、見極め。医師、訪問看護、各事業所の関係性の構築や顔の見える関係性が大切ということがよく分かった。
- ・ 私は3年ぶりの研修である。(礼)。今も以前もそれぞれの専門職が、役割をお互いに理解しながら、利用者が最も幸せであるような支援ができるようにシステムの構築に力を入れたい。
- ・ 主役は本人であること、本人の意思決定支援の大切さを学んだ。「本人が在宅で生活したい」という希望を、どう叶えるか。最近、介護度が高くなると、家族の不安、負担のために、入院、入所、長期のショートステイ利用などが多くなっている。そのため、在宅サービス事業所の経営状態も悪くなり、減ってきている。今後、ACPを普及していくことにより、在宅生活の希望が多くなると考えられる。在宅サービスの充実が求められると感じた。
- ・ 基礎資格が介護だと、医療系との連携に悩む事がある事は、これまでケアマネをしていて感じていた事だった。一つでも気軽に相談できる所があれば、強みになると思った。それぞれの対応の仕方、思い等、話を聞くことができ良かった。
- ・ 利用者と家族の意見が違う時の調整で悩む事が多くあるが、奥山先生の話聞いて、それぞれの訴える内容を聞くという基本に立ち返って、調整する事が改めて重要であると理解できた。また、調整する時には、“なぜ”、“どこが不安なのか”を明らかにして根拠のあるケアマネジメントを意識していきたいと思った。
- ・ 大変、勉強になった。基礎資格が介護職なので、医療関係者との連携は戸惑うことが多い。連携の重要性を改めて勉強させていただいた。いただいた情報をしっかり活用させていただく。
- ・ 訪問看護を利用したい際に、医療か介護か聞かれることが多い。今回学んだことを参考にしたい。在宅医療について、在宅でできることが多いと知ることができた。
- ・ 医療との連携についてのケアマネジャーアンケートはとても有効だと思うので、医療ソーシャルワーカー協会へ是非、投げかけていただき、一緒に解決できればと思う。
- ・ 現状など、実際の事例も含めての話で、大変、勉強になった。
- ・ 看取り時など、本人や家族の思い、意向に沿いながら支援にあたっていきたい。
- ・ 医師の話が聞けたのがよかった。家族、本人が医師へ伝えるのではなく、ケアマネジャーがワーカーに伝えることが、してよかったとわかった。看取りを今後も在宅でできると思った。
- ・ 本人の意思決定支援について考えを深めることができた。ケアマネジャーの抱えているモヤモヤを、チームで共有し支援していけるよう、地域包括支援センターとしてできることを考えていきたいと思った。
- ・ とてもわかりやすく、ためになった。詳しく実践的な内容であり、明日の診療から役立つ。
- ・ もっといろいろな人、病院のソーシャルワーカーや薬剤師等と話した方が良い。奥山先生のようなクリニックがもっとあると良いと思った。「誰か他の人、助けてくれないかな・・・」、ターミナル以外の訪問診療。
- ・ 今後の医療連携の参考になった。
- ・ 在宅医療の訪問診療の先生からの話や、実際にどのような流れで利用できるか、訪問看護の事例など、このようなポピーの研修の場面でなければ聞くことができないものだったと思った。もっと、ケアマネジャーの参加があっても・・・と感じた。コロナ感染者の拡大もあり、急な変更で集合型と、Zoomでのやり方も、今後、必要かもしれない。
- ・ 地域や多職種との関わり方、連携の重要性を改めて理解する事ができた。講師の説明がわかりやすくて良かった。
- ・ 地域包括支援センターでは、末期の方などは要介護となる事が多く、ケアマネジャーへ引き継いでプランを組み立ててもらうことがある。今日は、ケアマネジャーや訪問看護の方、訪問診療クリニックの方の実践を聞き、引き継いだ後、どういった支援が受けられるのかを学んだことで、本人や家族へどう自宅で過ごせるかの情報提供ができると感じた。私たちが学び伝えることで、「安易に入院」とならず、本人や家族の思いをかなえる手助けになればと思った。
- ・ 専門知識で“私が思う”最善に導きたい(導いてあげたい)と、支援する中で、このようになっている時が少なからずあるな、と思った。反省する。正しさを押し付けない。
- ・ 在宅に関連する研修が久しぶりであり、それぞれの職種と連携する必要性を改めて実感した。病院から在宅へしっかり連携できるよう情報共有したいと思う。
- ・ 在宅での生活を支えていくには、多職種連携が大切であることを再認識できた。そして、その中でも各職種が、自分の役割だけにとらわれずに関わり、支えていく姿勢も重要だと感じた。
- ・ 目的は同じだとしても(方向性)、医療従事者の視点を改めて確認できたと思う。クリニックの状況や体制を知ることが出来て、今後、やり取りする時に、相手の事情も考えて連絡をとったり必要な情報を伝えていきたいと思った。医療保険について、改めて基本的な知識を学び再確認することができた。それぞれの職種の専門性を活かしてチームケアが大切と思った。
- ・ 奥山先生の話の中にあつた、「何年も本人が受診しておらず、家族が薬をもらいにだけ行っている人」はいると、実感している。

本人が来ないと薬を出せないと説明してくれる先生もいるが、何年も会っていないのに薬だけ出すことは問題だと感じる。安くて楽だと本人と家族が感じていると、訪問診療へ結びつけることは難しい。多職種の人がそれぞれの専門性からACPについて考えることは、非常に大切に有意義だと思う。

- ・ 盛り沢山な内容だった。事業所みんなで聞きたかったが、都合がつかなかった。持ち帰って可能な限り、伝達し共有したいと思う。今後のシリーズも参加させていきたいと思う。(礼)
- ・ 医師、ソーシャルワーカー、訪問看護師、居宅介護、それぞれの立場から、同じ「在宅による意思決定支援」というテーマについて話を聞くことができ、理解が深まった。もう少しコンパクトに一人一人に質疑応答の時間があると、より理解が深まり受講者の満足度も上がるのではないかな。
- ・ 在宅療養について、なんとなくの知識があるだけだった。実際、訪問診療や訪問看護等、どんな内容で行われているのかわからない状態だった。今回、研修会に参加させていただき、内容や連携方法を学ぶ事が出来たので、今後、訪問治療に伺った時等、患者にアドバイスできるのではないかなと思った。医療、介護、そして私たち治療分野もその仲間に入れて頂ければなと強く思った。大変勉強になった。(礼)
- ・ 奥山先生より、意思決定支援をする際、陥りがちな深層心理に気づく事、相手ではなく自分の信念を柔軟にコントロールすることが必要であるという言葉が胸に、今後も支援していきたいと思う。山口さんのアンケート結果からの講話について、日頃のモヤモヤは、他のケアマネジャーも感じているのだというだけで、気持ちが和らいだ一瞬だった。コロナで対話が難しく、また、コロナの影響からくる悩みも増えている。
- ・ 他の職種の方々が求めているところ、得意としているところを学ぶことができたので、明日からの在宅業務に活かせればと思う。薬剤師として、利用者、またはその家族、多職種の方々の助けになればと思う。
- ・ 訪問診療や訪問看護の内容が具体的で大変わかりやすかった。皆様、利用者の希望に沿えるよう一生懸命取り組み、連携もしっかりとれるよう取り組まれていると感じた。日々、薬局にいらっしゃる患者にも心配な方はいらっしゃるので、本日、伺ったことを参考にさせて頂き、ケアにつなげていきたいと思う。相談窓口等知れて、大変良かった。
- ・ 地域で在宅療養に携わっておられる医師、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、看護師の皆さんの声をリアルで聞く事が出来て、非常に勉強になった。企業としてどのように地域医療の課題解決に関われるかを今後も考えていきたいと思う。(礼)
- ・ 実践されている方達の話だったので、大変参考になった。(礼)
- ・ 「何かあれば、とりあえず相談してみる」、簡単なようで、慣れないと難しいのかなと、日々、思っている。多職種で顔を合わせる機会が増えたらいいと思う。コロナ渦でなかなか難しいが…。日々の外来で、今日の内容で話をすると役立つことが多く、大切だと思っている。
- ・ 在宅医療の役割や、具体的な支援内容について知ることができた。病院だけでなく、在宅でも継続した医療を行うためにも多職種の連携や、本人や家族の意向をふまえた関わりが大切であると考えている。多職種間の中でも、情報収集の量や内容について、違いがあることもあると考えられるため、具体的になぜそれを希望しているのか、その都度、確認をしてアセスメントやケアを変えていくながら、医療提供を行っていききたい。専門だけではなくて、他の職種の役割を理解し、情報提供や連携へとつなげていけるよう学びを大切にしたいと思う。
- ・ 訪問診療、訪問看護、ケアマネとの連携をとるにあたって、自分がやるべきポイントがわかり、今後活かしていきたい。
- ・ 自宅で最期を迎えたいという希望の利用者の方が沢山いる。ACPについて、訪問診療、訪問看護について、何度、繰り返し聞いても、発見、気づきがある。この研修会に参加出来、自分のマネジメントの振り返りもできた。(礼)
- ・ 訪問診療について、クリニックやまがたの院長先生やソーシャルワーカーの方の話を聞いて、とてもイメージしやすく、今後、導入することになっても、スムーズに導入できそうと感じた。多職種協同により、在宅での介護の可能性が広がると感じた。
- ・ 訪問診療が慢性的な疾患の方でも入っていただけること、これまでの認識にはなかった。まずは、思い当たる方がいれば、気軽に相談してみようと思った(通院できないため、家族が薬受取のみ行っている方など)。本人を中心においた在宅療養。通院して医療を受けるよりも、本人が主体でいられると感じた。必要な医療や介護につながるために、本人の希望を理解し、選択肢の一つとして提案できるよう、私たちがまずしっかり理解することが不可欠と、改めて感じた。
- ・ 実践のための具体的な話を聴くことができた。苦手な医療知識、サービスだったが、積極的に活かしていこうと思う。
- ・ 時間が長いと思う。出席するための日程調整も難しく、参加中もボリュームいっぱいに入りきれない。内容はとてもよく、普段の業務に活用できると思った。前半の話、今年度、訪問診療クリニックやまがたの研修で聞いた内容でもあった。
- ・ 研修に参加し、訪問診療クリニックやまがたの対象者が、認知症で生活に支障がある方も含まれることが分かった。利用者家族の話の聞き方、正しさを押し付けないことや、専門知識で最善に導くこと等が響いた。
- ・ 実際に訪問看護の場を見てきたため、場面をイメージして聞くことができた。訪問診療、訪問看護について、深く学ぶことができた。在宅医療について興味があるため、自らの学びを深めていけるように学習を進めていきたいと思った。訪問看護を利用する上でのお金は、利用者にとっても気になるところではあるので、自分自身が理解して説明ができるようにしていくことが必要だと感じた。

- 施設で看護師をしている。訪問看護でも、ケアマネジャーでもないが、施設が「家」となった利用者を看護させていただいている。施設の中でも、多職種連携が重要となってくるが、改めて、「チームで行う」ことで、患者(利用者)が過ごしやすい環境を提供できることを再認識した。奥山先生がはじめに話された、「それは私の仕事じゃない、じゃなく、皆で皆の仕事を担う」というお話が心に残っている。今まさに、当施設で不足している部分であり、改善を目指しているところである。連携や医療者の志で、褥瘡が3週間で治療に導けたり、家族のその後まで、スムーズに前へつなぐことができたり・・・そんな連携を目指したい。ユーザーが喜ぶ看護を届けられる看護師になれるように頑張りたいと改めて思った。(礼)
- 様々な職種の方からみた地域連携や、訪問看護について知れて、学ぶことができた。利用者の方の意見を重視し、最善に導いていけるよう、協力していけたらと思う。
- 在宅医療における訪問看護師の役割を改めて学ぶことが出来た。在宅での看取りの考え方が変わってきた。今後、よりよい看護を行うために、日々、連携を大切にしていきたいと思う。
- とても身近な内容だったので、とても興味深く受けることが出来た。(礼)
- 顔の見える関係づくりや相談するタイミングが重要だと改めて感じた。
- 医療保険の訪問看護はとても複雑で、今回の研修だけでなく、支援の中で、自分でも調べたり、相談しながら学ぶ必要があった。意思決定支援はどうしても、右か左か・・・と、答えを出さなければならぬと思いがちなので、先生がおっしゃっていた、1回で決めない(繰り返し、相手の意向をふまえて)変化を受容し、「相手の選択肢をつぶさないように」を心にとめて支援したいと思った。答えが出ないことへの耐えうる力を持って向き合い、積み重ねることが、人生会議ではないかと、私自身、感じたことである。
- 途中退席で、訪問診療だけしか話を聞けなかったが、改めて、訪問診療について、理解でき良かった。
- 本人、家族含め、支援者の認識の差が大きいままだと対立がおきてしまう為、良好な関係を築く為にも時間をかけて変化を受容していく事の大切さを感じた。
- 私は歯科で現場に出る職種ではないが、IT ツールの活用や施設をこえて職種をこえて仕事をしなければいけないということは常に意識していこうと思った。また、歯科連携室、歯科相談を受ける立場として、“相手ではなく自分の信念を柔軟にコントロールする”ということも忘れず対応していこうと思う。
- 訪問診療や訪問看護について、知識を深めることが出来た。医療との連携については、居宅事業所の課題や困難な事例を知ることができたが、もう少し、具体的に病院や訪問看護などと、どのように連携を取っているか、居宅介護の方の目線のところを知りたかった。
- 山形市で働きはじめ、他県でのケアマネ経験と比較して、地域性やケアマネジャーの「～べき」という正しさの押しつけを考えさせられることが多くあった。その中で、今回の話はとても共感できる部分が多く、改めて頑張ろうと思わせて頂いた。(礼)
- チーム医療において、SNSサービスやLINEが活用されていて、情報共有と問題解決ができるという話が参考になった。在宅に伺って確認してきたことや、問題点を報告書として上げているが、現在のところ、報告書が一方通行となっていて、その後、どうなったのか、解決すべきなのか、様子を見てよいのか、答えがないままのことがあり、悩んでいた。この様なルールがもっと色々なところで使えるようになったら良いと思った。
- 基本、要介護3からの入所となる特養施設では、入所時にはすでに、意思決定が難しい場合が多い。コロナ渦もあり、家族と施設の関わりも、以前より薄れている現状があるなかで、看取りに関しては課題も多い。入所時点での本人、家族の意向の確認はもちろんのこと、入所中や日々変化する思いの確認が必要と改めて感じた。また、在宅時の担当ケアマネジャーからの情報提供から本人、家族の思いを引き継げるような支援も必要と感じた。
- 鍼灸、マッサージの訪問治療を行っているが、今回の講義については、業務に活用できるというわけでないけれども、知っておいて、損はないと思い、参加させていただいた。業種が違くと中々、勉強する機会が少ないので、大変良い機会だったと思う。
- 医薬品卸しの視点から、参加させていただいた。奥山先生の訪問診療に特化したクリニックについて、大変参考になった。疾患構成比等も、末期がんが中心かと思ったが、難病、心不全、呼吸不全等もある事を知り、参考になっている。実際の在宅、訪問看護師の方の活動など、現場での状況が目に見えるように分かった。

3. 今後希望するテーマ

- ICTに向けて、主治医につながるMCSの活用方法(ケアマネジャー向け)
- ケアマネジャーが悩んでいる事例検討や、パネルディスカッション。
- 老健入所の要件が、薬価が高いと断られてしまう。何かいい方法はないか。
- 「看取り」の一步、二歩手前の状態の時、どうするか?
- 障害福祉サービスについて(精神障害がある家族との関わりが増えてきている為)。後見人制度について。
- 施設ケアマネと医療との連携について

- ・ 訪問リハビリについて。感染症対策について。
- ・ 障害福祉が必要な方のケースや導入方法など学びたい。精神疾患のある家族とのかかわり方など。
- ・ ざっくりだが、病院、クリニック、訪問看護がケアマネジャーに求めること。医療職、介護職が同じ場で勉強出来る機会があると良い。今日のように、医療、介護がもっと繋がると良いと思う。
- ・ 医療、介護、治療(マッサージ、鍼灸)等の連携方法の強化について。
- ・ 実際の連携事例共有、成功事例等。
- ・ 薬局薬剤師、在宅への介入を現状どのように行っているか、事例等を聞きたい。
- ・ ピアサポートの存在も知してほしい(がんナビゲーターの存在も・・・)。家族も含めて気持ちの支援は大切と考える。薬剤師は介護と医療の併用になることで、費用負担が変わる。そのあたりを知ってもらえたらありがたいかもしれない。
- ・ 訪問診療クリニックについて
- ・ コロナ、フレイル。
- ・ 在宅の他の職種(本日の講義以外、行政含む)との連携、支援方法を知りたい。
- ・ 病院のソーシャルワーカーとのディスカッションのような事がしたい。
- ・ 患者がどうしたいかを聞きとって、寄り添って、連携できた事例や、うまくいかなかった事例等、今回のような研修をお願いしたい。多職種の皆さんの現状を知りたい。